

■ ボロは着てても心は錦 ■

この言葉は知事が今年度予算策定に当たり、県民に向けたメッセージであります。私自身6年前に「故郷に錦を飾る」のではなく、「故郷で錦を織ろう」、そんな気概を持ってふるさとえひめに帰ってまいりました。大変厳しい時代ではありますが、困難の中で私たちが織った錦が将来の子どもたちにとって救いの一助になれるよう、願いを込めて、4度目の一般質問に立ちました。



県議会定例議会にて登壇し、一般質問をする徳永しげき（上は今年3月、下は昨年7月）

愛媛の進む方向 愛媛版三位一体改革について

■私は為政者のリーダーシップのひとつとして、「時代」を読み、価値観を定め、進むべき方向性を県民に示すことが重要であると考えております。知事就任から7年が経過し、時代認識や理念も以前とは少しずつ変わってきていると拝察いたしておりますが、常々、「日本の中のえひめ」という座標軸で県政を考えられている知事におかれましては、現在の「時代」をどのように捉え、県民へのコミットメントとも言える、このたびの愛媛版三位一体改革をどのような思いで断行されようとしているのか、知事のご所見をお伺いいたします。

加戸知事答弁

◎今日、地方を取り巻く環境は経済のグローバル化や少子高齢化の進展等を背景といたしまして、基幹産業の構造転換や防災などの生活面での安全・安心の確保といった課題に加え、今後本格的な人口減少期を迎え、国・地方を通じて財政悪化が進む中、分権型社会への移行が求められるなど、ある意味、明治維新にも匹敵する大改革の時代にあるものと認識いたしております。県では今年度より、「県民との協働」、「選択と集中」の理念の下、政策・行政・財政の3つの計画を「県政改革3本の矢」として相互にリンクさせ、本県発展の礎となる簡素で効率的なマネジメントシステムを構築することにより、「共に創ろう誇れる愛媛」の実現に全力で取り組む覚悟であり、各位のご理解、ご支援を賜りたい。

県政のあり方

「えひめに住んで良かった」と感じてくれる県民と「この県庁で働けて良かった」と思う職員を一人でも多く増やしたい — そのための行政改革

■県では今年度から向こう4年間、県民ニーズの多様化・高度化、地方分権の進展、危機的な財政状況という諸課題を踏まえ、「自助・共助・公助」という視点を徹底し、これまでの県行政内部のみの改革に留まらず、県のあり方自体を抜本的に見直す構造改革に取り組みます。改革の担い手でもある職員の人材育成方針や民間のノウハウを活かし、従来の組織を活性化させる指定管理者制度の現状と問題点、平成20年に再編が予定されている地方局と本庁の役割分担など多岐に渡る質問をさせていただき、行政運営から行政経営への転換を求めました。



加戸知事と会談
明日の県政、そして県民のための幸せな未来について意見を交わす。

日当たらない所に光を当てる
(高次脳機能障害者への支援について)



本会議での答弁を受け、家族会の皆さんと愛媛県保健福祉部長に提言、提案をいたしました。

■現行制度のはざままで支援が受けにくく、社会的に孤立することなどが指摘されている高次脳機能障害者の本県での実態把握や支援のあり方をたどりました。

今治市・地場産業活性化のために
(新繊維産業試験場整備事業について)

■財政構造改革期間中に多額の財政支出は困難との判断から着工は平成22年度以降にならざるを得ない状況である。しかし、同試験場整備の動向は「今治新都市開発整備事業」全体にも大きな影響を及ぼすため、改革期間中の厳しい財政状況ではあるが、用地に関しては先行取得し、かつ、改革期間中に実施設計までは進める方向で検討していく旨の答弁が加戸知事よりありました。